

平成26年度 第2回 学校関係者評価委員会 報告書

1. 日時 : 平成26年10月16日(木) 16時10分～17時00分
2. 場所 : 日本福祉教育専門学校 高田校舎222教室
3. 出席者 : 委員 山田 幸一 (日本福祉教育専門学校 副校長)
- 委員 金川 宗正 (社会福祉法人敬心福祉会池袋敬心苑 事務長)
- 委員 松山 慎司 (社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 専門員)
- 委員 渡邊 大樹 (社会医療法人社団正志会南町田病院 専門職員)
- 委員 小内 仁子 (東京都言語聴覚士会 学術局部員)
- 事務局 小杉 泰輔 (事務部長)
- 事務局 川口 朝子 (教務課)
- 事務局 積田 修真 (教務課)
- 書面参加: 委員長 肥後 義道 (社会福祉法人 敬心福祉会 池袋敬心苑 施設長)

4. 議事

1) 議事録確認

平成26年度第1回学校関係者評価委員会報告書に沿って、議事録の確認が行われた。(山田)

2) 平成26年度重点目標と自己評価・自己点検の進捗報告

本年度(平成26年度)の重点目標と達成計画に沿って、報告が行われた。(山田)

重点目標

①職業実践専門課程のさらなる推進と、具体策の検討・実践

委員からいただいた提言を各学科や各種委員会に反映している。

②本校創設30周年記念誌の発行、回顧と前進への展望・実践

最終的な校正に入っている段階であるが、発刊が11月にずれこむ予定である。

③認定社会福祉士研修課程の開講に向けて具体策の検討・実践

専門学校では3番目に申請が受理されたが、受講者数が開講の最低ラインに満たなかった。

④次年度入学者目標の設定・受け入れ態勢の充実化

⑤国家試験合格率の向上にあたり具体策の検討・実践

⑥就職率の向上にあたり具体策の検討・実践

④・⑤・⑥については、C&C指標に掲げ教職員一丸となって取り組み中である。

⑦教育の基本的考え方の促進

取り組み中である。

3) 委員からの提言について

以下の①②について、議題を提言いただいた各委員より説明が行われた。なお、③については次回の委員会の議題へ持ち越しとする。

①教育方法、評価について: 小内委員

②授業評価アンケート: 渡邊委員

1) 教員は授業評価アンケートの内容をどのように受け止めているのか

2) 授業内容にどのように反映されているのか (いないのか)

3) 学生はどのように受け止めているのか

③企業等との連携：松山委員

1) 本校における企業（施設・病院）等と連携した、実習、実技、実験又は演習の授業の実践状況

2) 実習や演習に協力していただいた、企業（施設・病院）等への協力について

<例>施設・病院等職員の資格取得の支援、施設・病院での職員研修や家族への介護技術講習等への本校講師の派遣 等

4) 意見交換・質疑応答

当校では長年授業アンケートを実施してきたが、敬心学園グループの3校では実施していなかった。教員の教育力向上のため、平成26年度から質問項目を精査し、学園全体で実施することとなった。科目担当教員がアンケート結果を確認するだけではなく、各自フィードバックペーパーを提出してもらっている。前年度まではフィードバックペーパーを提出していただき個人での改善に終わっていたが、今年度からは学科内で共通する改善点を見出し、検討を重ねていくことにより学校組織として教育力を向上していく。(山田)

・②1)については、教員は大事なことだと受け止めている。2)は、学科の方針に反映している。

3)については、必要性を学生に十分説明し、理解を得ることが不可欠である。(山田)

・授業アンケートはどのように実施しているのか。(金川) 担当教員より配布されたアンケート用紙に記入後、学生の代表者が教務課へ提出する。その後、アンケート結果と自由記述項目を科目担当教員に返却する。(山田)

・自分たちの意見が次の学年へつながる意識を持って、学生には建設的な意見を出して欲しい。教育力向上の一環として授業アンケートを実施していることは、広報的にも良いアピールになる。(松山)

・学生にとってはアンケートに答えることが何の役に立つのか、疑問に感じる部分もある。具体的にこのように意見を扱っている、ということをはっきりとすると良い。(小内)

・教員が学生の意見を聞くことが可能な良い機会であると思う。(渡邊)

・教員の意識と学生の意識が重なると良い。アンケート結果から見出された課題に真正面から向き合い、教員の教授法を高めていって欲しい。(山田)

5. 次回の委員会

平成27年7月頃を予定

6. 総括 (山田)

本年度第二回目の学校関係者評価委員会が開催され、各委員から事前に提示されたテーマについて議論が進められた。テーマについての提示説明と現状の実施内容、あわせて今後の方針等についても、貴重で前進的なご意見等をいただいた。提示された①教育方法や評価の問題、②授業評価アンケートの問題等は、まさに昨今、問題になっているテーマであり、時期的にもマッチしたものであった。この問題は、教員サイドの問題のみではなく、事務スタッフを含めた学校全体のものであるがゆえに、

今後とも議論を活発化させ、学生にとってベターな教育環境になるべく努力すべき課題でもある。各委員のご意見等を吟味し、少しでも反映されてゆけば、本望である。

以上